第3回下川町林業振興審議会　会議録

日　時　令和元年7月29日（月）午後6時30分～午後8時30分
場　所　役場2階会議室
出席者
町　側　栗原課長、山本主幹、斎藤主査、今主査、高橋事務補　計5名
相手側　小林英明会長、越智一博委員、杉野諒輔委員、田邊真理恵委員、
筒渕正彬委員、三津橋弘茂委員　計6名

1　開　会

2　会長挨拶
小林会長挨拶

本日は、お集まりいただきありがとうございます。今年度は、林業振興基本条例の見直しの年でありますので、委員の皆様には地域林業・林産業の課題解決に向けて、情報共有と時代に即した政策の充実のため意見交換をしていきたいと考えていますので、忌憚のないご意見をよろしくお願いします。

3　議案
（1）今年度の審議内容及びスケジュール（案）について
事務局：資料に基づき説明

（2）下川町における林業・林産業の状況について
事務局：資料に基づき説明
委　員：町有林素材生産量の分類別構成比率のパルプ材は主伐、間伐、樹種別などをひっくるめた比率なのか。
事務局：その通りである。年々一般材の比率が上がっている要因としては、単位面積あたりの量が多く一般材の比率が高いカラマツの主伐を継続させているためである。
委　員：パルプ材の売先は。
事務局：町内3社であり、町外にはない。
委　員：木質原料製造施設に入る燃料の量は足りているのか。
事務局：今年は早い段階で間伐の予算がついたことと、河川工事発注の伐採の受入れも行っているため、燃料は出ている。
委　員：河川工事発注の伐採は枝や葉など全部受入れしているのか。
事務局：葉は受入れしていない。現在は枝まで細かい材でも受入れしている。
委　員：河川事業は毎年行っているのか。
事務局：その通りである。
委　員：木質原料製造施設には葉も一緒に燃焼させているのか。

事務局：葉を燃やすと灰分が多くなり、燃焼過程にトラブルが起きてしまうため、極力葉はついてない状態で受入れしている。末木のように葉が少し付いているものに関しては、山で自然乾燥させ葉を落としてから受入れしている。
委　員：燃焼灰の産業廃棄物はどこに運んでいるのか。
事務局：紋別の処理施設に運んでいる。現在は直接燃焼灰と重金属の成分が多い飛灰に分けているが、利用が難しく検討中である。
事務局：造粒装置については、今後効率的に処理できるものを検討中である。
委　員：蒸留後の葉を造粒装置で処理することは可能なのか。山への還元を考えているが、葉の分解が遅く処理に困っている。
事務局：年間どれくらい出ているのか。
委　員：8トンである。
委　員：山の追い上げ材の利用はしないのか。
事務局：検討しているが、コストと手間がかかる。
事務局：木質原料製造施設まで運んでもらえば、追い上げ材を買い取ることは可能である。

事務局：資料に基づいて説明
委　員：下川町で働いている林業従事者の中で、町外通勤者を町内に移住してもらうことは可能なのか。
事務局：定住させている方が多く難しい。
委　員：丸太の仕入れ量は町内外からのものか。
事務局：そうである。
委　員：素材仕入れ量が減っているのに対し、製造出荷額が増えているのはなぜか。
事務局：製品の価格の値上げなどを行っているため。
委　員：広葉樹の素材仕入れ量が年によって増減しているが原因はなにか。
事務局：平成27年～28年にあった虫害被害木をまとめて仕入れたため。

(3)　意見交換
事務局：北海道立北の森づくり専門学院に関して資料に基づいて説明
委　員：林業大学校の卒業後は国や道に就職するのか。
事務局：基本的には、地域の事業体に就職することを目的としており、国や道には採用しない方向と聞いている。
委　員：専門士とは国家資格なのか。
事務局：国家資格ではなく、称号である。
委　員：林業大学校は大学なのか。
事務局：文科省が定める学校教育法に基づく専修学校であり、短大卒程度である。
委　員：資格はどれくらい取得できるのか。
事務局：13-14 種類の資格を取得できる
委　員：新校舎に下川の材は使用されるのか。

事務局：道産材を使用する予定。
委　員：林業大学校卒業後、地元に就職してもらうような環境作りが必要である中で、現在どのように考えているのか。
事務局：下川町の生徒が林業大学校卒業後、下川町の企業に就職し５年以上働いた場合、奨学金を無償にするなど、検討していきたい。
委　員：商業高校には、周知はしているか。
事務局：北海道が中心となり全道の高校に周知しており、今後オープンキャンパスや説明会が開催される予定である。

事務局：ＳＧＥＣ森林認証取得に向けた状況に関して口頭により説明
委　員：FSC 認証と SGEC 森林認証について現状は。
事務局：FSC 森林認証に関しては、平成 15 年から地域に協議会を設置し、取り組んできた結果、FSC ブランドに基づいて商売している事業体が 2 社ある。SGEC 森林認証に関しては、町としては、山側は FSC 森林認証と一緒に取得しておき、川下側は経済的原理の中で有利な認証を自ら選択していただきたいと考えている。

事務局：東京 2020 大会選手村「ビレッジプラザ」木材提供に関して資料に基づいて説明
委　員：提供した木材はどうなるのか。
事務局：商用の利用は禁止されているため、町内でのレガシー利用を検討している。
委　員：木材の運賃はどこが負担するのか。
事務局：町が負担する。
委　員：木材のプレカットはどこで行うのか。
事務局：苫小牧のプレカット工場にお願いする。
委　員：売ることはできないということだが、加工は可能なのか。
事務局：可能である。

意見交換
委　員：地拵え用のクラッシャーによる林道沿いの草刈りは可能なのか。
事務局：実証している。今後検討したい。
委　員：林道の側溝の木が伸びてきている。成長しすぎると伐採にも支障が出るため、早めに処理した方が良い
委　員：現在退職者が増えている中で、求人を出しているが人が来ない。春先の造林は機械化が進んでおらず、手作業のため人手が欲しい。建設業の作業員に手伝ってもらうことは可能か。
委　員：建設業は春先に手が空くことが多いため可能だと思うが、造林経験があるわけではない。
委　員：ぜひ検討していただきたい。

委　員：造林の機械化はどのくらい進んでいるのか。

事務局：機械は販売されているが、コンテナ苗をしっかりさせることなど、使用するための条件が厳しい。現在、クラッシャーを地拵えだけでなく下刈りに使用できないか検討している。

4　閉会

小林会長：本日は忌憚のない活発なご意見ありがとうございした。これで第3回下川林業振興審議会を終了します。